

平成 31 年 2 月 24 日 (日) 施行

## 第 151 回 日商簿記検定試験 2 級 解説

### 第 1 問

- 商品売買の記帳を「販売のつど売上原価勘定に振り替える方法」により、「仕入」勘定ではなく、「商品」勘定で記入する。有形固定資産の減価償却に係る記帳を間接法によっているため、貸方に「車両減価償却累計額」勘定で処理する。支店独立会計制度を導入したため、現金、商品、車両を引き継ぎ、その貸借差額を「本店」勘定で計上する。
- 長期投資目的で当社の子会社にも関連会社にも該当しないため、「その他有価証券」で処理する。決算時の時価 > 取得原価により、評価差額のうち、税金相当額を繰延税金負債として計上し、残額をその他有価証券評価差額金に計上する。
- 売上割戻があった場合は、値引きと同様に処理する。ただし、免除される代金は当座預金から支払っているため、貸方に「当座預金」勘定で処理する。
- 税務当局から追徴の指摘を受け、追加で支払う税金は追徴法人税等(費用)に計上する。負債の計上に行ったため、貸方に未払法人税等に計上する。
- 平成 26 年 4 月 1 日に取得した備品は、前期末平成 30 年 3 月 31 日まで 4 年分を減価償却累計額に計上する。当期首平成 30 年 4 月 1 日から 12 月 31 日まで 9 か月分を当期の減価償却費に計上する。商品売買以外の取引であるため、売却代金は相手先振出の約束手形を「営業外受取手形」勘定で処理する。

償却率： $1 \div \text{耐用年数 } 10 \text{ 年} \times 200\% = 20\%$

減価償却累計額 4 年分： $\text{¥}120,000 + \text{¥}96,000 + \text{¥}76,800 + \text{¥}61,440 = \text{¥}354,240$

1 年目(H27 年 3 月)： $\text{取得原価 } \text{¥}600,000 \times 20\% = \text{¥}120,000$

2 年目(H28 年 3 月)： $(\text{取得原価 } \text{¥}600,000 - \text{¥}120,000) \times 20\% = \text{¥}96,000$

3 年目(H29 年 3 月)： $(\text{取得原価 } \text{¥}600,000 - \text{¥}120,000 - \text{¥}96,000) \times 20\% = \text{¥}76,800$

4 年目(H30 年 3 月)： $(\text{取得原価 } \text{¥}600,000 - \text{¥}120,000 - \text{¥}96,000 - \text{¥}76,800) \times 20\% = \text{¥}61,440$

減価償却費(当期)： $(\text{取得原価 } \text{¥}600,000 - \text{¥}354,240) \times 20\% \times 9 \text{ か月} / 12 \text{ か月} = \text{¥}36,864$

固定資産売却損：貸借差額より

## 第2問

## 1. 平成29年6月28日 剰余金の配当及び処分

## ①・② 剰余金の配当・準備金の積立

(借) その他資本剰余金	275,000	(貸) 未払配当金	250,000
		資本準備金	25,000
繰越利益剰余金	825,000	未払配当金	750,000
		利益準備金	75,000

準備金の積立額

 I 未払配当金(その他資本剰余金から)@ $\text{¥}5 \times 50,000$ 株 =  $\text{¥}250,000$ 

 未払配当金(繰越利益剰余金から)@ $\text{¥}15 \times 50,000$ 株 =  $\text{¥}750,000$ 

 II 資本金 $\text{¥}20,000,000 \times 1/4 - (\text{資本準備金}\text{¥}1,600,000 + \text{利益準備金}\text{¥}400,000) = \text{¥}3,000,000$ 

III Iの方が小さいので、未払配当金を準備金として積み立てる。そのうち、

 資本準備金：その他資本剰余金 $\text{¥}250,000 \times 1/10 = \text{¥}25,000$ 

 利益準備金：繰越利益剰余金 $\text{¥}750,000 \times 1/10 = \text{¥}75,000$ 

## ③ 別途積立金の積立

(借) 繰越利益剰余金	80,000	(貸) 別途積立金	80,000
-------------	--------	-----------	--------

## 2. 平成29年9月1日 増資

会社法が定める最低限度額を資本金としたため、払込金額の1/2を資本金にし、残額は資本準備金として処理する。

(借) 当座預金	500,000	(貸) 資本金	250,000
		資本準備金	250,000

 資本金：払込金額 $\text{¥}500,000 \times 1/2 = \text{¥}250,000$ 

 資本準備金：払込金額 $\text{¥}500,000 - \text{資本金}\text{¥}250,000 = \text{¥}250,000$ 

## 3. 平成30年2月1日 吸収合併

(借) 諸資産	9,000,000	(貸) 諸負債	5,000,000
のれん	400,000	資本金	3,000,000
		その他資本剰余金	1,400,000

 純資産の増加額：@ $\text{¥}550 \times 8,000$ 株 =  $\text{¥}4,400,000$ 

 その他資本剰余金： $\text{¥}4,400,000 - \text{資本金}\text{¥}3,000,000 = \text{¥}1,400,000$ 

のれん：貸借差額より

## 4. 当期純利益の計上

(借) 損益	980,000	(貸) 繰越利益剰余金	980,000
--------	---------	-------------	---------

計上した当期純利益は、繰越利益純利益に振り替える。

### 第3問

#### S1社の連結修正

##### 1. 開始仕訳

###### (1) 投資と資本の相殺消去

(借) 資本金	120,000	(貸) 子会社株式	170,000
資本剰余金	30,000	非支配株主持分	36,000
利益剰余金	30,000		
のれん	26,000		

非支配株主持分：(資本金¥120,000+資本剰余金¥30,000+利益剰余金¥30,000)×(1-80%)  
 = ¥36,000

のれん：投資分¥170,000-(資本金¥120,000+資本剰余金¥30,000+利益剰余金¥30,000)  
 ×80%= ¥26,000

###### (2) 開始仕訳 (X0年3月31日～X3年3月31日 過去3年分)

###### ① のれん償却

(借) 利益剰余金	3,900	(貸) のれん	3,900
-----------	-------	---------	-------

のれん償却：26,000÷償却年数20年×3年= ¥3,900

###### ② 非支配株主に帰属する当期純損益の振り替え

(借) 利益剰余金	10,976	(貸) 非支配株主持分	10,976
-----------	--------	-------------	--------

支配獲得後から前期末利益剰余金の増加額：

当期利益剰余金¥113,000-支配獲得時利益剰余金¥30,000-当期純利益¥28,120= ¥54,880

非支配株主持分：利益剰余金増加額¥54,880×(1-80%)= ¥10,976

##### 2. 当期期中仕訳

###### ① のれん償却

(借) のれん償却	1,300	(貸) のれん	1,300
-----------	-------	---------	-------

のれん償却：26,000÷償却年数20年= ¥1,300

###### ② 非支配株主に帰属する当期純損益の振り替え

(借) 非支配株主に帰属する当期純利益	5,624	(貸) 非支配株主持分	5,624
---------------------	-------	-------------	-------

当期純利益¥28,120×(1-80%)= ¥5,624

###### ③ 債権と債務の相殺消去 (P社とS1社)

(借) 買掛金	160,000	(貸) 売掛金	160,000
借入金	100,000	貸付金	100,000
未払金	8,000	未収入金	8,000

###### ④ 収益と費用の相殺消去 (P社とS1社)

(借) 売上高	660,000	(貸) 売上原価	660,000
受取利息	1,500	支払利息	1,500

###### ⑤ 期末棚卸資産に係る未実現利益の消去 (P社から仕入)

(借) 売上原価	45,000	(貸) 商品	45,000
----------	--------	--------	--------

期末商品¥150,000×売上総利益率30%= ¥45,000

###### ⑥ 期首棚卸資産に係る未実現利益の消去 (P社から仕入)

(借) 利益剰余金	36,000	(貸) 売上原価	36,000
-----------	--------	----------	--------

期首商品 ¥120,000 × 売上総利益率 30% = ¥36,000

## S 2 社の連結修正

### 1. 投資と資本の相殺消去

(借) 資 本 金	100,000	(貸) 子 会 社 株 式	100,000
-----------	---------	---------------	---------

S 2 社は、P 社の 100% 所有子会社である。

### 2. 当期期中仕訳

#### ① 未払利息の計上 (P 社と S 2 社)

(借) 支 払 利 息	500	(貸) 未 払 費 用	500
-------------	-----	-------------	-----

#### ② 債権と債務の相殺消去 (P 社と S 2 社)

(借) 未 払 費 用	500	(貸) 未 収 収 益	500
買 掛 金	25,000	売 掛 金	25,000
借 入 金	40,000	貸 付 金	40,000

#### ③ 収益と費用の相殺消去 (P 社と S 2 社)

(借) 役 務 収 益	96,000	(貸) 売 上 原 価	96,000
貸 貸 資 産 受 取 家 賃	2,700	販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	2,700
受 取 利 息	1,700	支 払 利 息	1,700

#### ④ 債権と債務の相殺消去 (S 1 社と S 2 社)

(借) 買 掛 金	12,000	(貸) 売 掛 金	12,000
-----------	--------	-----------	--------

#### ⑤ 収益と費用の相殺消去 (S 1 社と S 2 社)

(借) 役 務 収 益	84,000	(貸) 売 上 原 価	84,000
-------------	--------	-------------	--------

#### ⑥ 建物減価償却費の修正 (P 社と S 2 社)

(借) 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	2,250	(貸) 貸 貸 資 産 減 価 償 却 費	2,250
-------------------------	-------	-----------------------	-------

貸貸資産受取家賃が消去されたため、費用収益対応の原則により、貸貸資産減価償却費を販売費及び一般管理費に振り替える。

#### ⑦ 固定資産に係る未実現利益の消去 (P 社と S 2 社)

(借) 土 地 売 却 益	7,700	(貸) 土 地	7,700
---------------	-------	---------	-------

売却益：売却価額 ¥134,000 - 帳簿価額 ¥126,300 = ¥7,700

## 第4問

問1 修繕部費の予定配賦率

$$\text{年間予算} \text{ ¥}5,600,000 \div \text{年間予定修繕時間}(600 + 800) = \text{¥}4,000 / \text{時間}$$

問2 第一製造部費と第二製造部費の予定配賦率

$$\text{第一製造部費の修繕部費予定配賦額} : \text{予定配賦率} @ \text{¥}4,000 \times 600 \text{ 時間} = \text{¥}2,400,000$$

$$\text{第一製造部費の総配賦額} : \text{部門費} \text{ ¥}45,600,000 + \text{¥}2,400,000 = \text{¥}48,000,000$$

$$\text{第一製造部費の予定配賦率} : \text{総配賦額} \text{ ¥}48,000,000 \div 8,000 = \text{¥}6,000 / \text{時間}$$

$$\text{第二製造部費の修繕部費予定配賦額} : \text{予定配賦率} @ \text{¥}4,000 \times 800 \text{ 時間} = \text{¥}3,200,000$$

$$\text{第二製造部費の総配賦額} : \text{部門費} \text{ ¥}36,800,000 + \text{¥}3,200,000 = \text{¥}40,000,000$$

$$\text{第二製造部費の予定配賦率} : \text{総配賦額} \text{ ¥}40,000,000 \div 20,000 = \text{¥}2,000 / \text{時間}$$

問3 当月の第一製造部費と第二製造部費の予定配賦額

$$\text{第一製造部費の予定配賦額} : \text{予定配賦率} @ \text{¥}6,000 \times \text{実際機械稼働時間 } 690 = \text{¥}4,140,000$$

$$\text{第二製造部費の予定配賦額} : \text{予定配賦率} @ \text{¥}2,000 \times \text{実際機械稼働時間 } 1,720 = \text{¥}3,440,000$$

問4 当月の修繕部費の配賦差異

$$\text{修繕部費の予定配賦額} : \text{予定配賦率} @ \text{¥}4,000 \times \text{実際修繕時間}(52 + 72) = \text{¥}496,000$$

$$\text{配賦差異} : \text{実際修繕部費} \text{ ¥}502,200 - \text{予定配賦額} \text{ ¥}496,000 = \text{¥}6,200 \text{ (借方差異)}$$

問5 当月の第一製造部費の配賦差異

$$\text{実際第一製造部費} : \text{予定配賦率} @ \text{¥}4,000 \times \text{実際修繕時間 } 52 + \text{配賦前部費} \text{ ¥}3,957,000$$

$$= \text{¥}4,165,000$$

$$\text{配賦差異} : \text{実際第一製造部費} \text{ ¥}4,165,000 - \text{¥}4,140,000 = \text{¥}25,000 \text{ (借方差異)}$$

## 第5問

問1 積数の比である等価比率の計算表の完成

1. 積数の計算

等級製品X：等価係数3×完成品量6,000枚＝18,000枚

等級製品Y：等価係数1×完成品量2,000枚＝2,000枚

2. 等価比率

等級製品X：18,000枚÷(18,000枚+2,000枚)＝90%

等級製品Y：2,000枚÷(18,000枚+2,000枚)＝10%

問2 当月の月末仕掛品原価の計算

問3 当月の完成品総合原価の計算

仕損は工程の途中で発生した正常なものであり、正常仕損の処理は度外視法により、完成品と月末仕掛品の両者に負担させる。

		材料費 (枚)			
700,000 円	月初 1,000	完成 8,000			6,300,000 円
7,200,000 円	当月 9,000				
	=8,000	<del>仕損 1,000</del>			
	+2,000				
	-1,000	月末 2,000			1,600,000 円

月末仕掛品原価：  $\text{¥}7,200,000 \div 9,000 \text{ 枚} \times 2,000 \text{ 枚} = \text{¥}1,600,000$

当月完成品原価：  $(\text{¥}700,000 + \text{¥}7,200,000) - \text{¥}1,600,000 = \text{¥}6,300,000$

		加工費 (枚)			
900,000 円	月初 500	完成 8,000			12,900,000 円
13,600,000 円	=1,000×50%				
	当月 8,500	<del>仕損 1,000</del>			
	=8,000				
	+2,000				
	-1,000	月末 1,000			1,600,000 円
		=2,000×50%			

月末仕掛品原価：  $\text{¥}13,600,000 \div 8,500 \text{ 枚} \times 1,000 \text{ 枚} = \text{¥}1,600,000$

当月完成品原価：  $(\text{¥}900,000 + \text{¥}13,600,000) - \text{¥}1,600,000 = \text{¥}12,900,000$

当月の月末仕掛品原価：材料費 $\text{¥}1,600,000$ +加工費 $\text{¥}1,600,000 = \text{¥}3,200,000$

当月の完成品総合原価：材料費 $\text{¥}6,300,000$ +加工費 $\text{¥}12,900,000 = \text{¥}19,200,000$

## 問 4 等級製品 X の完成品単位原価の計算

等級製品 X の按分額：総合原価 ¥19,200,000 × 等価比率 90% = ¥17,280,000

等級製品 X の完成品単位原価：按分額 ¥17,280,000 ÷ 完成品量 6,000 枚 = ¥2,880

## 問 5 等級製品 Y の完成品単位原価の計算

等級製品 Y の按分額：総合原価 ¥19,200,000 × 等価比率 10% = ¥1,920,000

等級製品 Y の完成品単位原価：按分額 ¥1,920,000 ÷ 完成品量 2,000 枚 = ¥960